

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『や』優しい心で、『さ』さわやかな笑顔、『し』信頼関係を大切に、『い』一緒に楽しく、と独自の理念で認知症高齢者との関わりを大切にしている。また、地域密着型サービスとして『やさしい』には、地域の方々との優しい交流の意味合いもあり、運営理念を実現している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に目の届く所に理念を掲示し、理念をもとに日々のケアについての話し合いを行っている。また、ユニット独自で目標を決めて常に初心にかえり取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には、パンフレットやホーム便りを利用しホームでの生活がより把握しやすいようにしている。また、行事や会議などでもお話することを心がけている。地域の人々には(婦人会、町内会の方々)季節ごとに発行するホーム便りで分かり易く理念を説明している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	田植えの際は、おはぎの差し入れをしたり、行事の際は隣近所の方も招待して交流を持っている。8月30日に予定している夏祭りは、近隣の方々に招待状をお配りしている。近所の方から菜園で作った野菜や果物をいただいたりと、親しくお付き合いをしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	婦人会の方々との交流の場を設けており、外出時はボランティアで参加していただいている。町内の催し物がある際は、声をかけてくださり、町内のお祭りに出かけて行き交流を持っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方からの見学希望があれば受け入れている。グループホームでの暮らしがどのようなものかを知っていただくために説明したり、認知症高齢者を在宅で支える家族の相談にものっている。	○	運営推進会議の中で話し合った地域の方々や、家族対象の『認知症について』の勉強会を今後予定している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の内容を詳しく理解し、全員で話し合いながら評価している。改善項目は、皆で意見を出し合い、よりよいケアを提供できるように改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価(自己評価)内容は、会議の中で説明している。家族の立場からの率直な意見や感想をいただいている。地域の方々にも様々な情報をいただいて、ご指導を受け評価への取り組みに活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム便りをお渡しし、ホームの行事などの近況報告をしている。ホームに入居可能な空き部屋がある際は連絡し、連携をとりながら対象者がいれば紹介していただいている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会の中で専門講師から学んでおり、必要対象者には、制度や内容を説明できるよう知識を身につけている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会の中で専門講師から学んでおり、虐待の危険を早期に発見できるよう知識を身につけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者や家族との関わりを多く持ち、生活内容や利用内容を説明し、利用者様がホームでの暮らしに合っているかどうかについても話し合い、ご理解、納得をいただいて入居している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から何でも話せる間柄(信頼関係)を重要視しているが、遠慮のないように家族面会時、身内の方がおられる時に希望や願いをお聴きしたりしている。また、第三者的な立場の人にさりげなく、会話の中からお聴きする工夫をしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	頻回に面会に来られる家族は、その都度口頭で報告しているが、利用者全員に定期的(毎月)書面で報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に『ご意見箱』を設置しており、言いにくい場合は、書面で表せれるようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回、運営者・責任者参加の定例会議を開催しており、職員からの意見や提案を述べる機会がある。年に2回、『自己評価表』を提出し、それに基づき運営者や管理者は個人面談をして一人ひとりの意見を聞いている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族ができない場合の通院介助や、行事の際は職員を多めに配置するなど勤務調整をしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を壊さないよう、スタッフの異動は必要最小限に抑えている。異動する場合は、早めに職員を配置し、引継ぎの期間を長く持っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	立場や、経験、習熟度に応じて研修計画を本部で立てている。また、職員に法人外で行われる研修情報を連絡事項で知らせ、働きながらも自己啓発の機会を奨励している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡協議会に参加し、業種の違う福祉同業者が交流をし、悩みや困難事例の検討、制度の勉強会など連携の場を持っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	事務長、施設長に悩みなどの相談をしている。また、外部からの第三者(スーパーバイザー)がおり、話を聞いてもらえるため、ストレスを軽減する場がある。慰労もかねて親睦会の場もある。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自己目標(目標シート)を立て、それに向かって働くよう指針を持ち、自己啓発に努めている。また、顧問の社労士による、『働くこと』の意味、『人生観』などを教わり、気持ちの上でフレッシュできる機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	一人ひとりの状態により違うが、ご自分らしい生活を送っていただくためにご本人から多くの情報を聴きとっている。何を望み、何をしてもらいたいのかに焦点をあてている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の想いを理解し、相談に応じている。ホームが出来ることは相談にのり、不安や悩みが解消できるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の相談時からしっかりと状態把握に努めて、面接などを行い、ご本人とご家族が必要とされることを見極めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一人ひとり状態が違うので、入居後、個々に応じて自宅への外出・外泊を行なっただき、いつでも自宅へ帰れることを経験していただくこともある。また、不穏時に家族が傍にいて安心感が得られるように泊まることもできる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理を一緒にする時に、料理法をお聞きしたりなど、ご本人と職員間で自然な関係ができている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事の際に、ご家族にも参加していただき、一緒に時間を過ごすことで交流を図っている。また、ご家族に不安事や相談事、話したい事があれば、お聴きし、共に考え、喜び、悩み事も嬉しい事も共有し合える関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事以外でも、いつでも気軽に来ていただけるよう、働きかけを行なっている。面会時は、本人とご家族が気兼ねなくゆったりと過ごせるよう配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が面会に来られても居心地よく過ごせる配慮や、毎年行っている行事(お寺さん、総会)などこれまで続いていた関係が良好に保てるよう、個々に応じて支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	他の利用者様と一緒に関わりを持てるように職員が間に入り配慮している。仲間同士で心配し合える関係を大切にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所時は、このホームから離れてもいつでも相談にのれることとお話している。また、お手紙のやりとりもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや、希望などを毎日の会話の中でよく聴き、希望に沿えるように取り組んでいる。会話から思いや意向が聴き取れない方は、表情やしぐさで思いを読み取っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自の「家族状況とグループホームに期待する事」「バックグラウンド」「生活の様子」のシートを利用し、個々の生活歴や全体像の把握に努め、ケアに繋げている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の記録に一日の言動や行動、身体状況などを詳しく記録し、状態を把握している。また、急に変化があった時は職員全員で話し合い、現状の把握と今後の対策を相談している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別の介護計画を作成している。計画作成時は、チームケアのための担当者会議を開催し、意見を反映させた介護計画を立てている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月一回見直しを行っている。また、状態に変化があれば直ちに会議を開き、ご家族や医療機関の関係者などと話し合い、新たな計画を作成している。計画は職員間で共有している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録に一日の言動、行動、身体状況などを詳しく日誌に記録している。「行動計画実施記録」は計画に連動した内容で毎日のケアの実践、結果を記録し、毎月評価を行うことにより、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望があれば利用者様の居室へ宿泊していただけるよう布団なども用意している。家庭での冠婚葬祭行事に家族が送迎できないときは、ホームが協力し、お連れしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のスーパー、食堂、公園に出かけている。事前に下見の際に駐車場など、協力を得る事もある。地域のボランティアや婦人会、民生委員の方たちが慰問に来て下さっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーや他の事業所の担当者と常に連携を持っている。近隣の病院の認知症デイケアを毎週利用されている入居者様もおられる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの担当者とは、2か月に1回の運営推進会議で情報交換している。不明な点や質問があれば指導していただいている。また、見学に来て下さっていて、ホームを良く知っていただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族のご理解をいただいたかかりつけ医にお願いしている。定期的に訪問に來たり、必要時は、往診に來ていただいている。また、事業所近くの総合病院と協定書を結んでおり、適切な医療が受けられている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい専門医に、行動障害が著しい利用者様の相談や診断、指導をしていただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム内に看護師を配置している。また、地域の看護師とも連携が取れており、健康管理などの相談をしながら支援している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には頻回に面会に行き、不安を和らげられるよう支援している。主治医、ご家族と相談をしながら、早期退院のための対応をしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、入居時にご家族からの希望を聞いている。しかし、ご家族の気持ちに変化がある場合もあるので、機会を見ながら繰り返し話し合っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームにおいての『重度化した場合の対応に関わる指針』があり、その中でホームができることとできないことを見極めている。かかりつけ医と連携し、できる限り入居者様およびご家族の意思を尊重しながら支援に取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人様の状態をよく理解し、家族と共に起こりうる事を十分に話し合い、移り先との連携を持ちながら住み替え時の状態変化を、できるだけ少なくできるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄支援のいる方は、排泄チェックシートを利用し、排泄パターンを把握し、誘導や排泄介助を行うことにより気持ちよい生活を支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人様の気に入ったシャンプーを使用したり、くつろいだ入浴ができるよう支援している。 白癬予防に竹酢液を使用している。竹酢液には殺菌作用と保温効果があり、個々に応じて使用している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし、夜間良眠できるような状態をつくっている。 眠れないと訴えのある場合は、話をゆっくり聞いて安心できるよう心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの出番や役割が発揮できるよう、場面づくりを考えて支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力量に応じて財布を持っていただき、買い物時、職員が付き添いサポートしながら支払いもしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、庭の散歩をしたり、必要物品や好みの買い物に出る機会をつくり、気の合ったグループ少人数で出掛け、利用者様の希望に沿った支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	NHKの『のど自慢大会』に職員が出場し、全員で応援に行き、「長生きしていて良かった」と皆様喜ばれた。夏は、地元の夏祭り、すっかり変わってしまった築港付近(高松駅)への外出をし、皆さんの表情が生き生きするのを感じた。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が好きな方は家族や友人に便りを書いてもらったり、電話をしたいとの申し出がある時は、すぐ対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人などの面会があり、自室やリビングでお茶を飲んで過ごされている。職員は、訪問者が気兼ねをせず過ごせる雰囲気づくりに配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体の勉強会でも身体拘束について取り上げて、内容を把握できており、ケアにも反映されている。定期的に「身体拘束廃止委員会」を開催し、職員全員で話し合っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をすることにより、不穏症状が増すことを職員全員が把握できている。傍に寄り添い安心できるように対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	設計の時点で全体が見渡せる間取りを考えており、見守りしやすい場所となっている。 日常生活の流れの中で、利用者様の所在は常に把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な刃物類の取り扱いには注意し、使用していない時は、目につかない所に保管している。また、本数確認を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ホーム独自の『事故防止マニュアル』を作成しており、事故防止の対応を常に話し合っている。職員全員が入居者様の日々の状態や性格を理解しており、目配り気配りして事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	対処方法、救命救急法など学習し、定期的訓練を行っている。参加できていない職員には、資料で説明を行っており、次回の訓練参加を促している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署の協力指導のもと避難訓練を行っている。地域への働きかけを行い、消防訓練にも参加していただき、協力をお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	予測されるリスクは家族にお話し、安心した暮らしができるように、ご家族の希望とホームの方針とあわせ話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	早期発見できるよう、常時、入居者の状態変化がないか注意している。 異常が見られる場合は医療機関へ連絡し、指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、用法、用量を把握しており、個々の医師の指示どおり服薬できるよう支援している。症状の変化が見られた場合は、医師に報告し、対応している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	料理の中に食物繊維を豊富に含んだ食材や乳製品を多めに使ったり、天気の良い日には散歩をして積極的に身体を動かすよう、働きかけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを実施をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成している。摂取量や水分量に配慮している。人参やトマトが苦手な方には、細かく刻んで分からないようにして食べてもらうなどの工夫をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防、対応のマニュアルをホーム独自で作成しており、勉強会でもテーマにして学んでいる。毎日の生活の中で、手洗いを励行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、翌日一日分が前日に市場から届き、常に新鮮なものを提供している。『食事管理マニュアル』の「キッチン衛生管理」「食中毒防止対策」に沿って正しい知識を知り、食中毒防止に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に植木鉢を置いたり、お花を植えたりして家庭的な雰囲気心を心がけている。手作りの表札をドアに掛け、温かさが伝わるよう配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な物品を使用している。季節ごとに装飾品を変えたり、花を生けて季節感を出し、気持ちよく暮らせる場になっている。花は、利用者様が庭で摘んで来て生けている。眩しい箇所には簾やカーテンで工夫をしている。プライバシーの保護にもなっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや家具の配置を工夫して空間づくりをし、思い思いに過ごせる工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品や趣味の小物を持って来ていただいております、くつろげる部屋になっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	環境整備時、清掃時に換気を行い、竹酢液を使用している。庭にハーブを植えており、テーブルにハーブを生け、消臭への工夫をしている。 また、室温に応じてこまめに温度調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室など、手すりをつけており、建物内はバリアフリーである。一人ひとりの身体機能に合わせて居室内に手すりを個別に設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	目印になるように、目線の高さに色分けしたネームプレートを設置している。 また、手作りの表札をかけ一人ひとりの個性を出している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	職員と共に玄関周りの花の水やりや庭に散歩に行き、日向ぼっこを楽しんでいる。 庭には花やハーブが咲いている。ベンチで過ごしたり、草花を摘む楽しさを味わっている。屋外トイレを設けているので安心して過ごしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・理念に掲げている「やさしい」を念頭に、常に笑顔が耐えないホームであるように取り組んでいる。
- ・自然に囲まれた環境を活かして、屋外に出かける時間が増えるように常に考えている。
- ・自然の中で季節の風を肌で感じたり、花や木々の緑を見て、気持ちが晴れて心が癒されることを、一緒に暮らしている入居者様と職員が共に感じ、共に喜びを分かち合いたい、と考え支援している。また、散歩をすることで身体を適度に動かし、筋力が保ていつまでもお元気で暮らせるようことを願っている。